

9月
行事予定

今月のご縁日

9/20
水曜日
11:00~

かいざんえ

開山会

当山は推古天皇の3年、地中から忽然と湧き出た霊山でその時、金龍が天より降って山を廻り守護したと伝えられています。その故事にちなんで、お供物を持った世話人様を含めたお練り行列にて本堂を一周して龍神様をお招きした後、本堂にて百味法要を行います。
お申し込みいただいた方には、おれとお供物をお授け致します。
※本年のお抹茶接待はございません。

【寺務所にて受付中】 講金 3000円



9/20
水曜日
開山会法要
終了後

【地蔵尊開眼法要】

開山会の法要終了後、地蔵經にある28種のご利益にちなんで二十八地蔵尊として整備をしておりました地蔵尊の開眼法要を執り行います。

※お地蔵様の施主の方がいらっしゃいましたら、当山までご一報いただけましたら幸いです。

朝まいり会

9月1日~7日 午前8時~8時半
会費:500円也

毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。継続されている方は表彰され記念品が授与されます。

写経の会

9月10日(日) 午前10時・午後1時
会費:500円也 定員:午前午後共に80名ずつ

お経を一字一文字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。

合同大般若法要

9月25日(月) 午前11時
法要料:5000円也

皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

【朝まいり会よりお知らせ】

お名前の掲載につきまして

8月より朝まいり会で七日間皆勤された方はいちょうにお名前をお載せいたします。お名前の掲載を希望されない方は本堂職員までお声かけください。

要予約 坐禅の会

9月23日(土) 午前9時半~10時半
参加費:500円也

僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。
足の悪い方は椅子でのご参加もできます。
事前に寺務所にてご予約ください。

ライブ配信のご案内(配信QRコード)

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っています。



待乳山聖天

いちよう

2023年09月号

令和5年8月20日発行/No.369

発行所: 待乳山 本龍院

〒111-0032 東京都台東区浅草7-4-1

☎ 03-3874-2030

「四諦」

本堂部長 関口真允



般若心経の一文に『苦・集・滅・道』という四語があります。お釈迦様の教えでこれは四諦(したい)といい、人生は苦しいものであり(苦)、苦しみの原因はものに対する執着(集)、苦しみの根源を絶つ(滅)、そのために日々努力する(道)ということを読かれました。

この四諦の苦→集→滅→道の文字の順序こそが、大事であります。

日々、努力の結果苦しみの根源を絶つことができるのでは?(道→滅)思いがちですが、この場合最後に『滅』がくれば人生が完結してしまうと考え、お釈迦様はあ

えてこのような順序にされたと思われます。

もし仮に、人生の完結を迎えてしまえば、人間は向上心を持つことなくただひたすらに現状に満足し生きていくことでしょう。現状維持は衰退とほぼ変わらないと私は考えます。

聖天様の前でお参りする際、お経を無心に集中して読めたとか、写経では前回より同じ字をより丁寧に書けたとか、このような些細なことでも前回までの違う自分と見比べられたら十分でしょう。

また普段の生活の中で何か失敗をしてしまったとしても、次回は修正しようと向上心をもち実行に移せばよいのです。

そういった、皆様の考えや行動を神様や仏様は暖かく見守ってくださり、様々な形でお力添えをいただけるでしょう。

人生も修行も『苦→集→滅→道』の繰り返しです。

ご信徒の皆様は朝まいり会や写経等で般若心経に触れる機会が多いと思われます。

その時や普段の生活でも四諦を意識し、意味を思い出し、実行することができれば違った自分や世界が見えてくることでしょう。

月間行事



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiya.jp までメールをお送りください。



「ご朱印の意味とは」

近年御朱印はカラフルな印を押印してくれる寺社が増えデザインも凝られるようになっており、若い世代の方にも人気が高いそうです。ですが、本来の意味を理解して御朱印を頂いている人は少ないのではないのでしょうか。折角にお参りに来たのですから、少しでも意味を理解したうえで頂く方がよろしいかと思います。

そもそも御朱印とは、「写経を奉納した証」として授与されるものでした。御朱印を納経印と呼ぶのはそのためです。庶民も旅が許されるようになった江戸時代に参拝を旅の大義名分として関所を通る旅行者が多かったそうです。現代でも参拝を目的に旅行に行く方も多いので、今も昔も人々は参拝旅行がポピュラーであったということが伺えます。

さらに「写経を奉納した証」その起源は、「六十六部廻国聖(ろくじゅうろくぶかいこくひじり)」通称六部と呼ばれる修行者たちが、全国66の霊場を巡り、経文を納めた証しとして受け取った「納経請取状」であるといわれています。ではなぜ修行者たちは証が必要だったのでしょうか。それは仕事を終えてきたことの証明の為でした。

その仕事とは江戸時代中期に起きた廻国信仰のブームの際に代参として、願主の代わりに廻国するいわばお参り代行サービスでした。他人に雇われて行くのであれば、行った証拠が必要になる。彼らには依頼主に対して仕事の完遂を報告する義務があったため、経文を納めた受取証をもらい、仕事を終えてきたことを証明したのです。

ですが代参を利用した人々はお参りが面倒だったからそのような仕事を依頼したのではありません。当時はもちろん現代よりも治安が悪いわけです。武器を持たず旅費としてある程度のお金を持ち歩かなければならない六部は盗賊にとって格好の標的でした。現代において怪談「六部殺し」として語られることや各地で道半ば倒れた六部を供養するために建てられた「六部塚」などからその過酷さが窺えます。

話が長くなりましたが御朱印の意味と起源を要約すると、御朱印は各地に写経を納める「六十六部廻国聖」が命がけで参拝し、そのこと証明する為に貰った証明書が起源です。

現在ほとんどの寺社仏閣で御朱印が頂ける現状でまるでスタンプラリーのように感じる方も少なくないでしょう。ですが今では手軽に手にはいるものも昔は命がけだったことを想い、巡礼の旅の功德を良く理解したうえで御朱印を頂くようにしましょう。そうすることにより一層御朱印を頂くことの有難さを感じることが出来ると思います。



◀ ご報告 ▶

「出世観音供養会 報告」

7月17日(月・祝) 出世観音供養会を執行いたしました。最高気温36度と猛暑の中でしたが、多くの方ご参加されました。法要後には大広間にて住職による礼拝作法説明会が行われました。参拝方法の基本について、実践を交えながらの説明に、多くの方が正しい参拝方法を身に付けようと真剣に参加されておりました。



「常香講 報告」

7月20日(木) 常香講大般若法要を執行いたしました。法要後は本堂にて深谷執事長によるお香についての法話がありました。執事長は經典を引用しながら、お香について詳細に語り、お香についての知識をより深める機会となりました。



訃報

中村英一郎様 享年95歳

元総代の中村英一郎様が、享年95歳にて永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。



～ 本堂脇龍神口手水場 ～

待乳山の手水舎と言えば、山門をくぐって右側額堂向かいにあります。本堂脇さくらレールの乗場にも手水場がございます。

平成25年に待乳山世話人会の御奉納で、庭園にあった天保時代の手水鉢をさくらレールを利用の方のために移築しました。

さくらレールから直接本堂に参拝される際には、こちらの手水場で手前の蛇口をひねってご使用ください。

